

夜明けに向かって！ ～クラウド時代の情シス～

2023年度 西日本 クラウド時代のシステム運用分科会



INDEX

- 1. INTRODUCTION : クラウド時代に必要な情シスとは
- 2. ABOUT US : 分科会メンバー紹介
- 3. AS-IS / TO-BE : 変わっていく情シスの姿
- 4. GAP : 解決すべき**GAP**
- 5. ACTION : 提案「情シス出島」
- 6. PROCESS : 情シス出島をあなたの会社で作るには
- 7. CONCLUSION : 情シスへの応援歌

INTRODUCTION

クラウド時代に必要な情シスとは

INTRODUCTION

ABOUT US

AS-IS / TO-BE

GAP

ACTION

PROCESS

CONCLUSION

実は■■■■年前なんです

クラウドが日本に上陸 (The Cloud Expands to Japan)

投稿日: ■■■■

クラウドが日本に上陸

AWSの新しい アジアパシフィック東京リージョンが利用可能になりました！

出典：<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2011/03/02/announcing-asia-pacific-tokyo-region/>

実は 1 3 年前なんです

クラウドが日本に上陸 (The Cloud Expands to Japan)

投稿日: Mar 2, 2011

クラウドが日本に上陸

AWSの新しい アジアパシフィック東京リージョンが利用可能になりました！

出典：<https://aws.amazon.com/jp/about-aws/whats-new/2011/03/02/announcing-asia-pacific-tokyo-region/>

実は13年前なんです

- 2010年～2020年にかけて、変化の激しい時代への対応の為にクラウドが日本企業に急速に普及
- 日本企業に概ね以下の影響を与えた
 - PoCのハードル低下
 - 安価 + 迅速なシステムリリース（スクラッチ開発減少）
 - 災害対策環境の構築（分散・海外）

クラウドが企業に与えた影響(DX成熟度調査)

表 1-2 成熟度レベルの基本的な考え方

| 成熟度レベル | | 特性 |
|--------|-------------------|--|
| レベル0 | 未着手 | 経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない |
| レベル1 | 一部での散発的实施 | 全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施にとどまっている (例) PoCの実施において、トップの号令があったとしても、全社的な仕組みがない場合は、ただ単に失敗を繰り返すだけになってしまい、失敗から学ぶことができなくなる。 |
| レベル2 | 一部での戦略的実施 | 全社戦略に基づく一部の部門での推進 |
| レベル3 | 全社戦略に基づく部門横断的推進 | 全社戦略に基づく部門横断的推進 全社的な取組となっていることが望ましいが、必ずしも全社で画一的な仕組みとすることを指しているわけではなく、仕組みが明確化され部門横断的に実践されていることを指す。 |
| レベル4 | 全社戦略に基づく持続的実施 | 定量的な指標などによる持続的な実施 持続的な実施には、同じ組織、やり方を定着させていくということ以外に、判断が誤っていた場合に積極的に組織、やり方を変えることで、継続的に改善していくということも含まれる。 |
| レベル5 | グローバル市場におけるデジタル企業 | デジタル企業として、グローバル競争を勝ち抜くことのできるレベル レベル4における特性を満たした上で、グローバル市場でも存在感を発揮し、競争上の優位性を確立している。 |

現在の成熟度
9割の企業 : Lv3未満

8割以上の企業
: Lv2未満

目標の成熟度
3.16

クラウドが企業に与えた影響(DX成熟度調査)

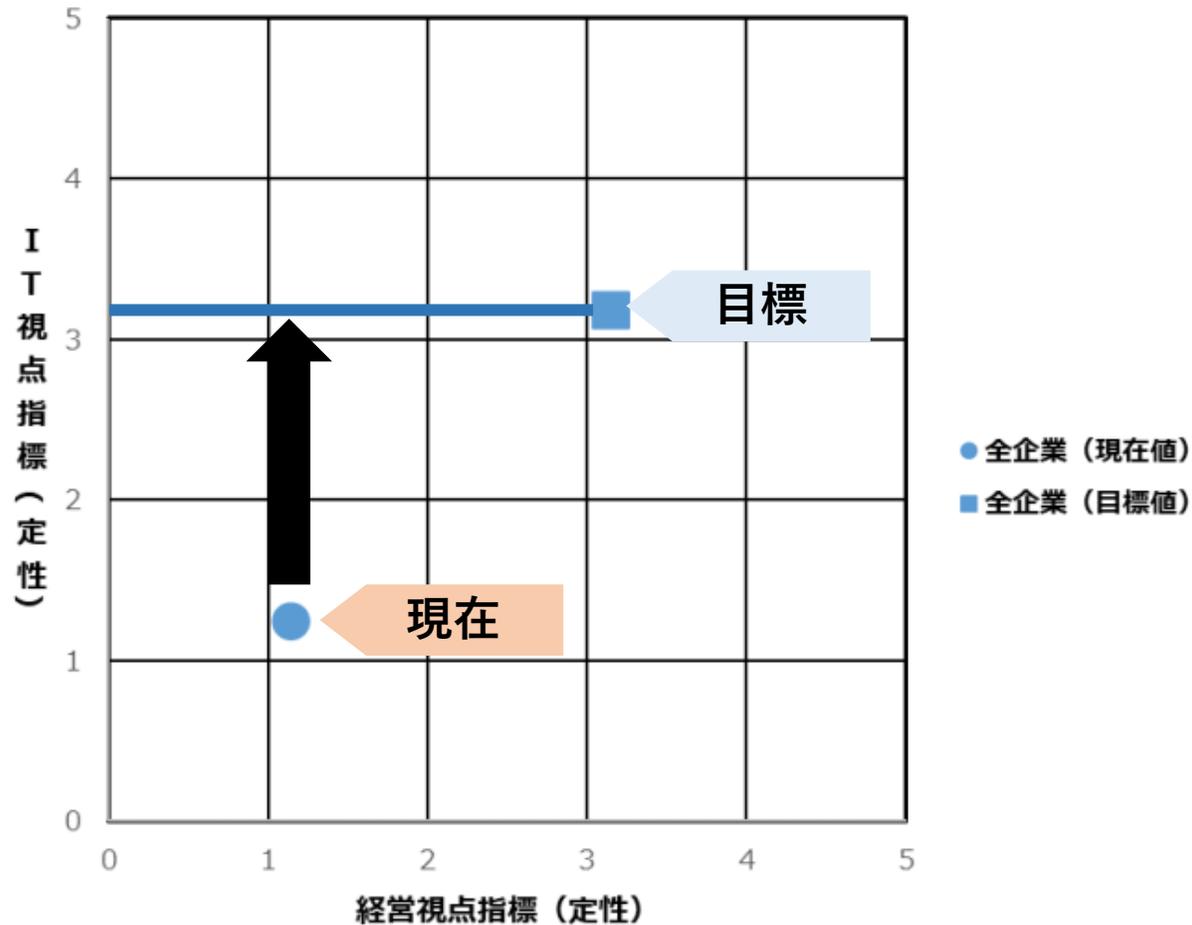
表 3-25 先行企業と非先行企業の従業員数規模の内訳

| 従業員数規模 | 先行企業 | 非先行企業 |
|---------------------|------------|--------------|
| 1. 20人未満 | 157 | 2,213 |
| • 2. 20人以上100人未満 | 31 | 944 |
| 3. 100人以上300人未満 | 16 | 240 |
| 4. 300人以上500人未満 | 5 | 58 |
| 5. 500人以上1,000人未満 | 9 | 55 |
| 6. 1,000人以上3,000人未満 | 15 | 75 |
| 7. 3,000人以上 | 48 | 90 |
| 総計 | 281 | 3,675 |

大企業の中での
成熟度Lv2以下の企業

165/228
(72%)

クラウドが企業に与えた影響(DX成熟度調査)



“IT視点指標”で
目標のDX推進成熟度に
至るための施策が必要。

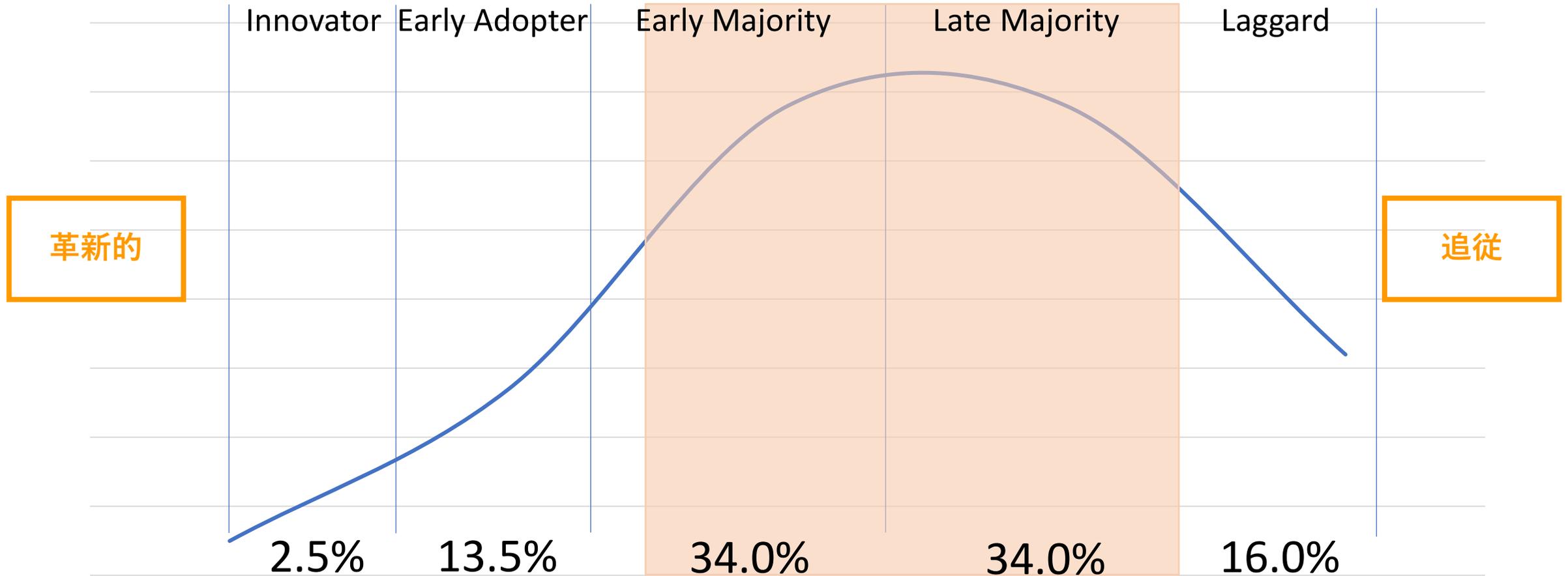
皆さまの情シス、時代の変化に対応できていますか？

「クラウド時代」に情シスに求められる役目とは？

本提案で想定される情シス像

イノベーター理論

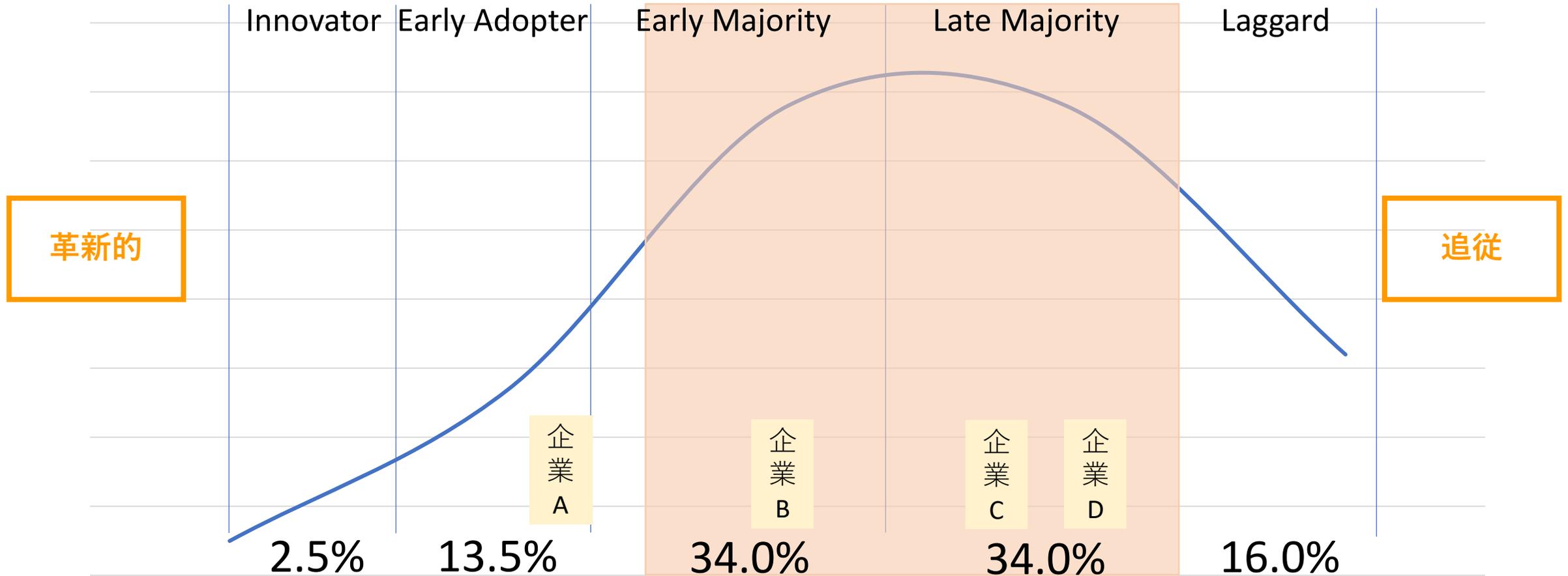
(新たなサービスが市場に投入されたときの、消費者の反応)



本提案で想定される情シス像

イノベーター理論

(新たなサービスが市場に投入されたときの、消費者の反応)



本提案で想定される情シス像

- ITサービスの提供を生業としていない企業（非IT企業）
- 一定規模以上の情シスを設置（社内＋社外で30人以上）
- 各事業部でDXに向けた取り組みが始まっている
- 漸進的にクラウド導入中だが、レガシーシステムも残留
- システム内製/外注は問わず

本分科会のテーマ

- 「クラウド時代のシステム運用」ってなんだ？

・テーマ：「クラウド時代のシステム運用とは？ ～最後に残る運用担当者の仕事は何だ？～」

- ・クラウドの運用の多くはクラウドベンダーにより実施される
- ・フルクラウドではユーザ企業の運用領域の範囲や業務、役割分担やリスク管理などはどうなるのか
- ・不要になる業務、残る業務、新たな業務など
ユーザ企業の運用部門の将来像を描き、必要な取り組みやスキルを検討する

So What??

本分科会のテーマ

- 「クラウド時代のシステム運用」ってなんだ？

• 「クラウド時代」

- 情シスの業務変革やDXが軌道に乗る時期
- 分科会参加者の中期経営計画を参考に、2025年以降と定義

本分科会のテーマ

- 「クラウド時代のシステム運用」 ってなんだ？

- 「システム運用」

- IPA『情報システムユーザースキル標準(UISS)』(2011)における
情報システム戦略策定・情報システム戦略評価を除く
情シスの全業務の総称

◎10年以上前の文書であるが、業務分類としては現在の業務を網羅できていることを分科会情シスメンバーで確認

UISS上の定義

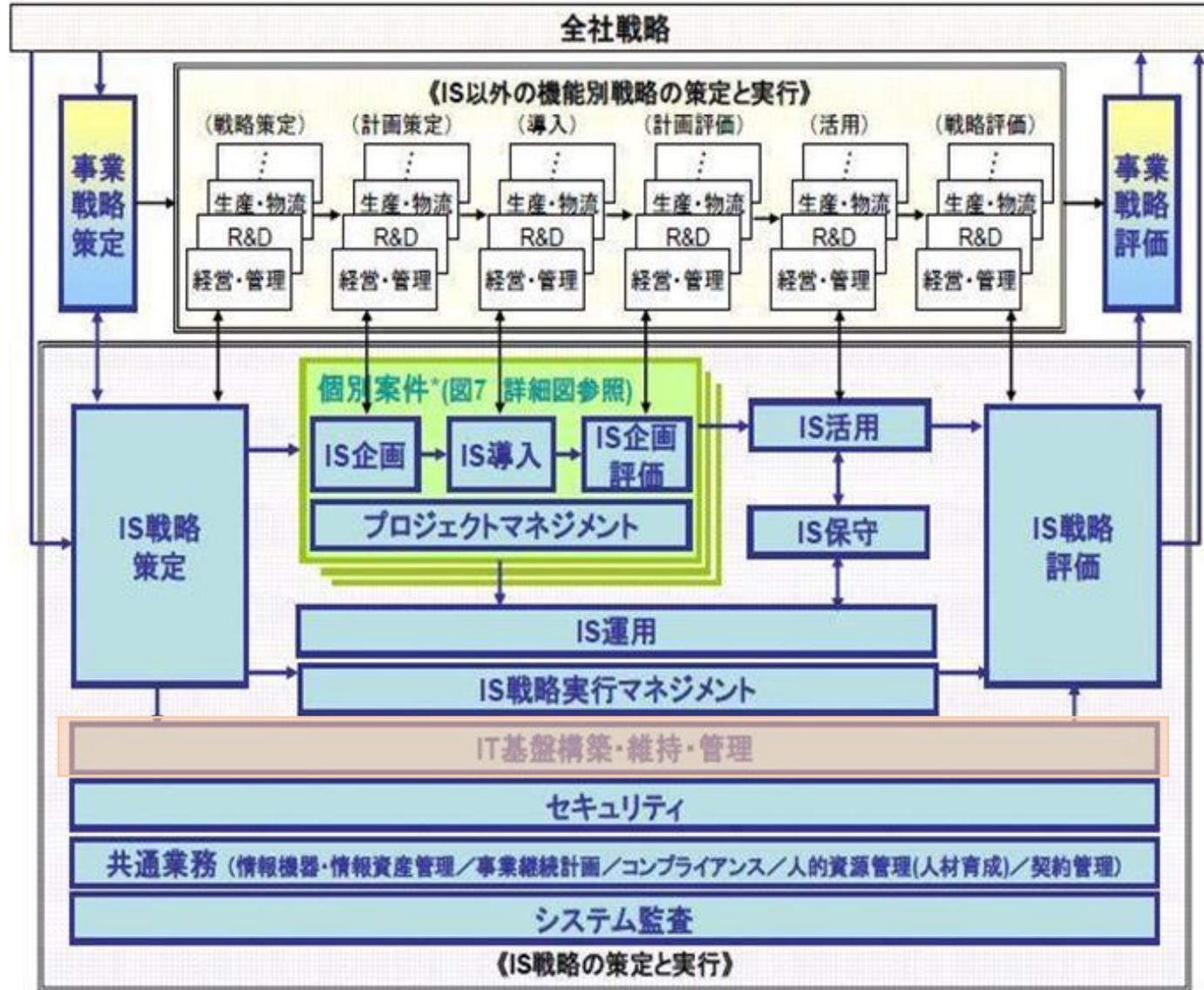


図 4 タスクフレームワーク

分科会の定義

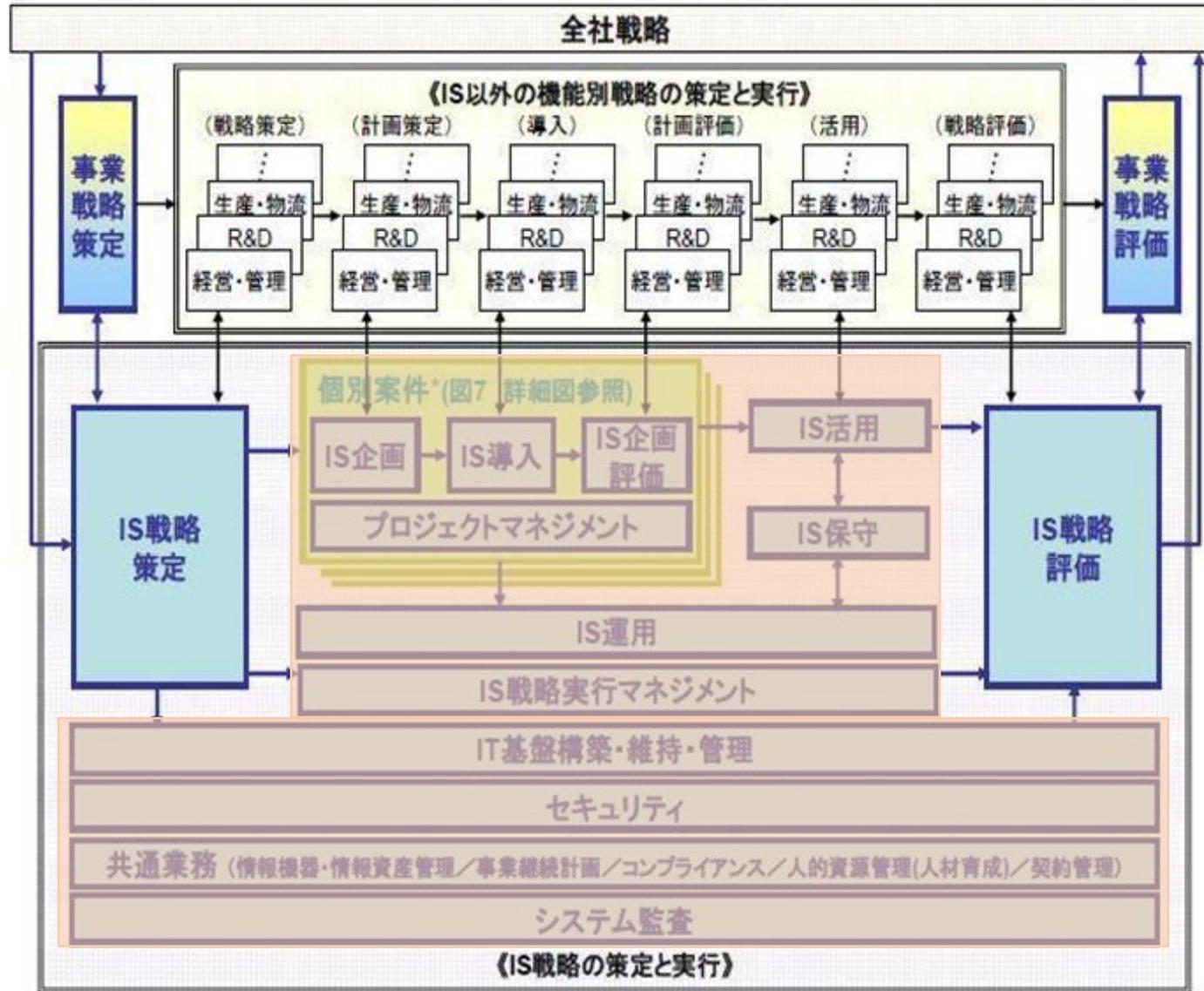


図 4 タスクフレームワーク

本分科会のテーマ

- 「クラウド時代のシステム運用」ってなんだ？

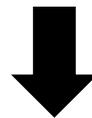
- 「システム運用」：定義を広げた理由

- UISS上は「システム基盤周りの維持管理業務」

- 有用な成果報告とするために、3か月間討議した結果・・・

- あるべき姿の情シスに至るまでの業務変革プロセス

- × クラウドの運用TIPS



小手先の変更だけでは“夜明け”は迎えられない！

本分科会のテーマ

- 「クラウド時代のシステム運用」ってなんだ？

クラウド時代にDXを軌道に乗せるために
あるべき姿の情シスになるには、
どのような業務改革を遂げればよいか

をテーマとして議論する。

ABOUT US

分科会メンバー紹介

INTRODUCTION

ABOUT US

AS-IS / TO-BE

GAP

ACTION

PROCESS

CONCLUSION

ABOUT US

竹本 匡宏



吉田 勇也

株式会社ダスキン

椿 啓一



五十嵐 新



上河内 裕弥



矢野 悠太



中澤 崇之



ABOUT US

竹本 匡宏



吉田 勇也

株式会社ダスキン

椿 啓一



五十嵐 新



情シス

上河内 裕弥



矢野 悠太



中澤 崇之



AS-IS / TO-BE

クラウド時代に変わっていく情シスの姿

- INTRODUCTION
- ABOUT US
- AS-IS / TO-BE**
- GAP
- ACTION
- PROCESS
- CONCLUSION

情シスの業務整理

- UISS（情報システムスキル標準）で現業務を網羅的に確認

| | | | |
|----------------------|----------------------|------------------|--------------------|
| 事業戦略策定 | 事業戦略評価 | 情報システム戦略策定 | 情報システム戦略評価 |
| IT基盤構築・ 維持・管理 | 情報システム 戦略実行マネジメント | プロジェクト マネジメント | 情報システム企画 (個別案件) |
| 情報システム企画評価 (個別案件) | 情報システム導入 (個別案件) | 情報システム活用 | 情報システム保守 |
| 情報システム運用 | セキュリティ | 情報機器・ 情報資産管理 | 事業継続計画 |
| コンプライアンス | 人的資源管理 | 契約管理 | システム監査 |

◎システム開発以外の業務も・・・

情シスの業務整理

(クラウド時代に向かって課題を感じる業務)

| | | | |
|----------------------|----------------------|------------------|--------------------|
| 事業戦略策定 | 事業戦略評価 | 情報システム戦略策定 | 情報システム戦略評価 |
| IT基盤構築・ 維持・管理 | 情報システム 戦略実行マネジメント | プロジェクト マネジメント | 情報システム企画 (個別案件) |
| 情報システム企画評価 (個別案件) | 情報システム導入 (個別案件) | 情報システム活用 | 情報システム保守 |
| 情報システム運用 | セキュリティ | 情報機器・ 情報資産管理 | 事業継続計画 |
| コンプライアンス | 人的資源管理 | 契約管理 | システム監査 |

◎企画・活用でITを最大限に活かせていない・・・

情シスの現状(AS-IS)

◎ITを最大限に活かせていない状態とは・・・

・ ユーザ部門に言われるがままのシステム開発

- ・ 要望通りの現場改善システムが林立し、業務プロセス全体を俯瞰したものになっていない。(人手のプロセス。部門間でのデータの二重登録。)

・ 時間と工数が必要なシステム改修

- ・ システム間連携や改修を重ね複雑化
→機能追加や修正などに綿密な調査や計画が必要で即時対応が難しい状態

・ 既存の仕組みを流用したシステム構想

- ・ 既存の仕組みや運用をベースに低コストでシステム化が実現できているものの、トレンドや他社事例の収集、自社への適用検討ができていない状態

情シスの未来(TO-BE)

◎理想の状態は・・・

• ユーザ部門と協働し、業務を改革

- 業務プロセスや要件を把握し、情シス観点の効率解を提案できている状態
(シンプルかつ、全体最適な業務フロー)

• 業務の仕分けや見直しで維持業務の負荷を軽減

- 開発運用の標準化・自動化と外部委託により運用業務の比率を減らせている状態
(人的リソースの適材適所・スキルの有効活用)

• 付加価値の高いITを迅速に活用展開

- クラウド時代に求められる技術を全社で活用できている状態
(時代にあった高度な技術を迅速かつ、安全に活用)

GAP

解決すべきGAP

INTRODUCTION
ABOUT US
AS-IS / TO-BE
GAP
ACTION
PROCESS
CONCLUSION

クラウド時代の情シスへの会社の期待とは

ユーザ部門の動きに連動した迅速な対応が求められている

利用したいときにIT活用ができることで
会社全体がビジネス面で優位性を確保できる

そのためには・・・

システムの基盤整備と全体最適化が必要

(Ex.アジャイル開発・ローコード開発、
部門で分離されたデータの全社活用、
トレンドの把握・検討でき、導入の敷居も低い)

新しい技術を活用したいユーザ部門の要求に応えるために、
『運用を自動化・標準化し、新たな取り組みに力を入れよう。』
これは、今にはじまったことではない？

なぜ、できなかつたのでしょうか？

改革が進まない要因と解決すべきGAP

要因（現実）：安定稼働最優先の文化

システムを止めない・事故を起こさない責務。

そのため、システムトラブルやセキュリティなどのリスクの過大評価？

変更には関係各所との調整も増える・・・

→消極的なマインド

理想：爆発的に進化するITに追隨できる文化

技術者としてトレンドは知っておきたい！使ってみてみたい！

高負荷な運用業務から脱却したい！

→積極的なマインド

理想と現実のGAP

- ・ 業務を改善する方法はあっても変えられない
- ・ IT部門であっても技術を使いこなせない



新たな施策を打つ必要がある

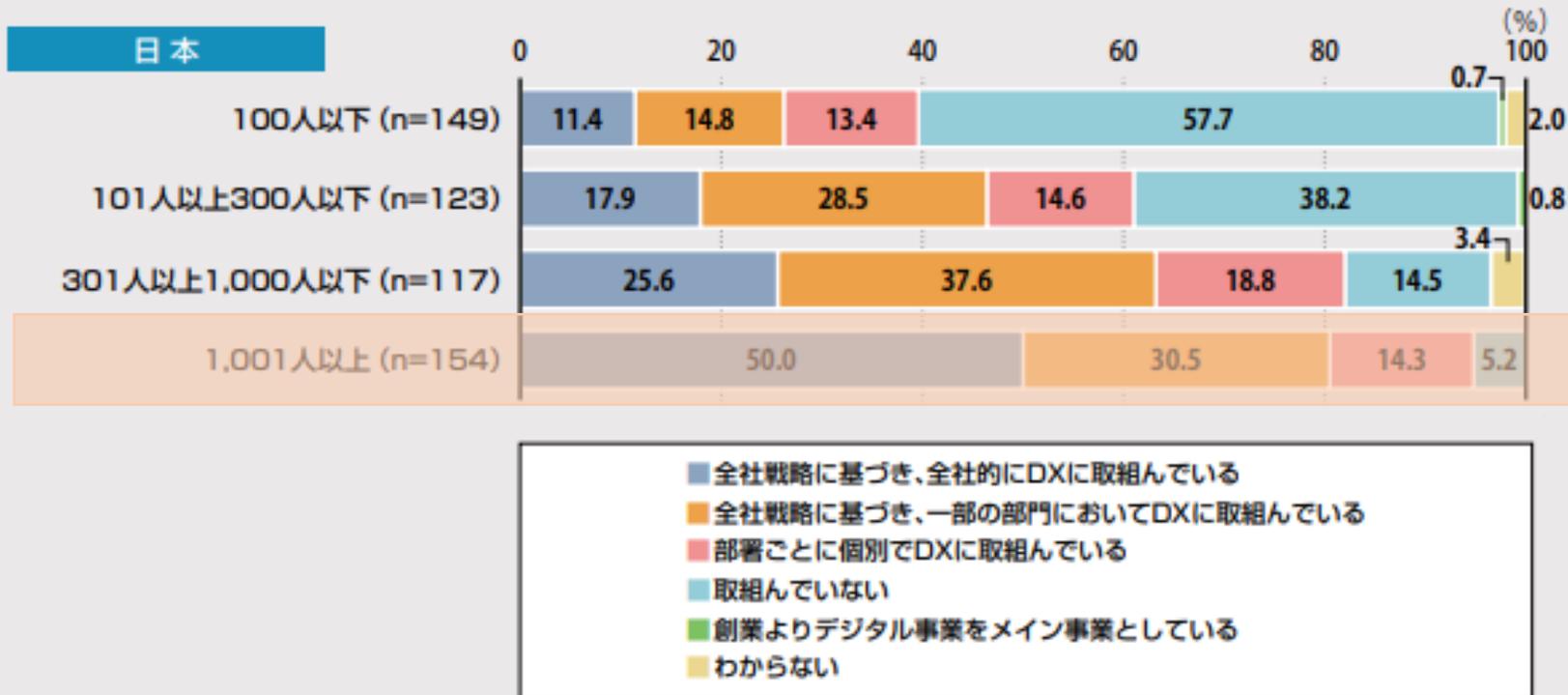
ACTION

提案「情シス出島」

INTRODUCTION
ABOUT US
AS-IS / TO-BE
GAP
ACTION
PROCESS
CONCLUSION

3か月の追体験

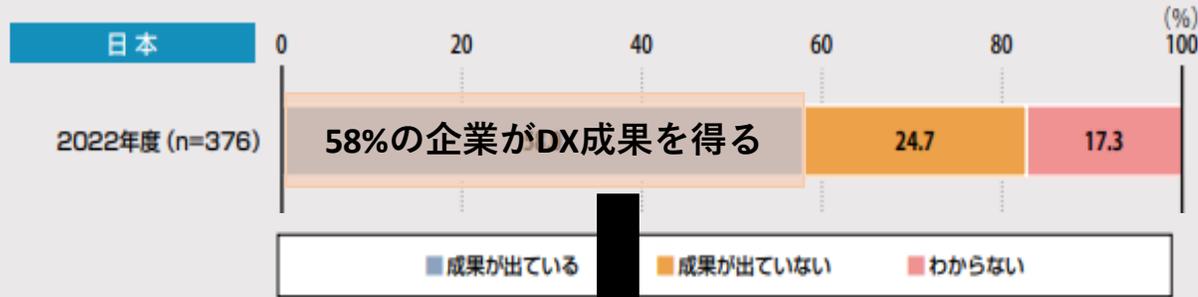
図表1-8 DXへの取組状況(従業員規模別)



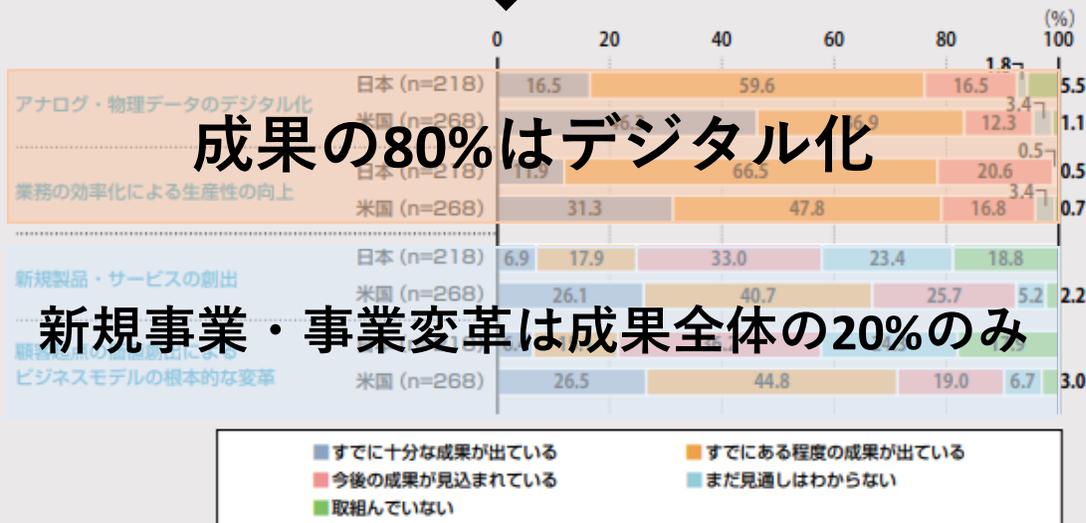
大企業の50%が
全社的にDXに
取り組んでいる

3か月の追体験

図表1-9 DXの取組の成果



図表1-12 DXの取組内容と成果



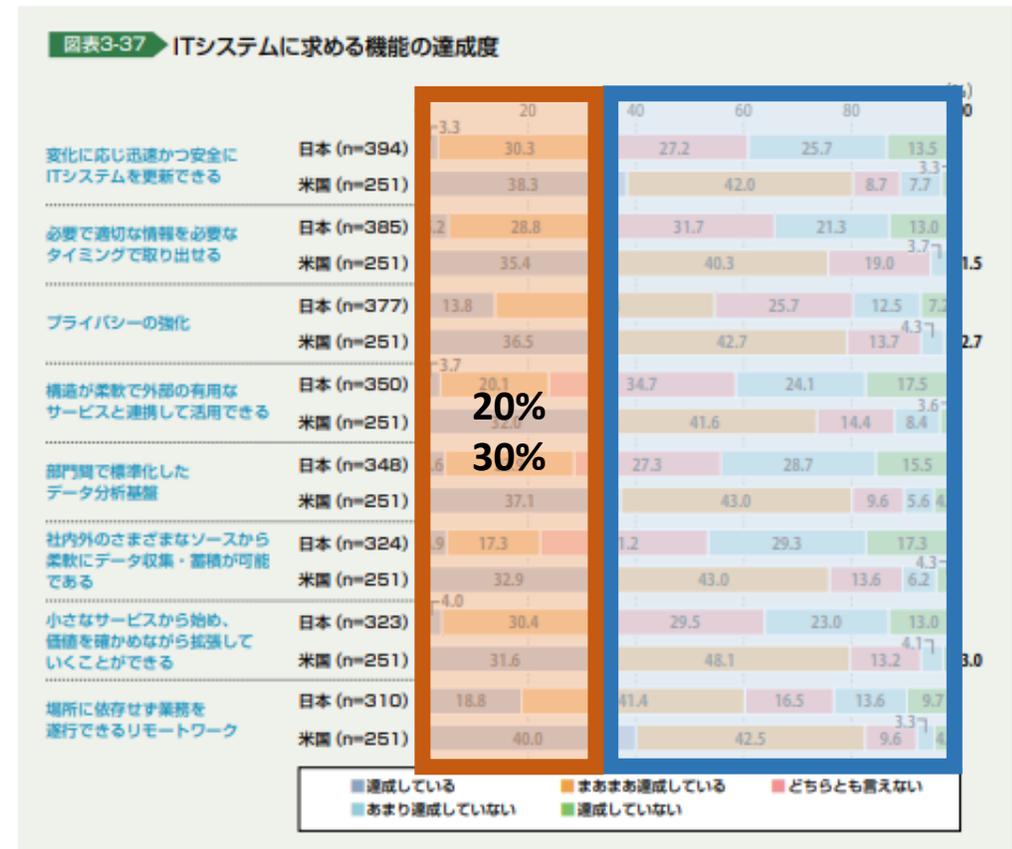
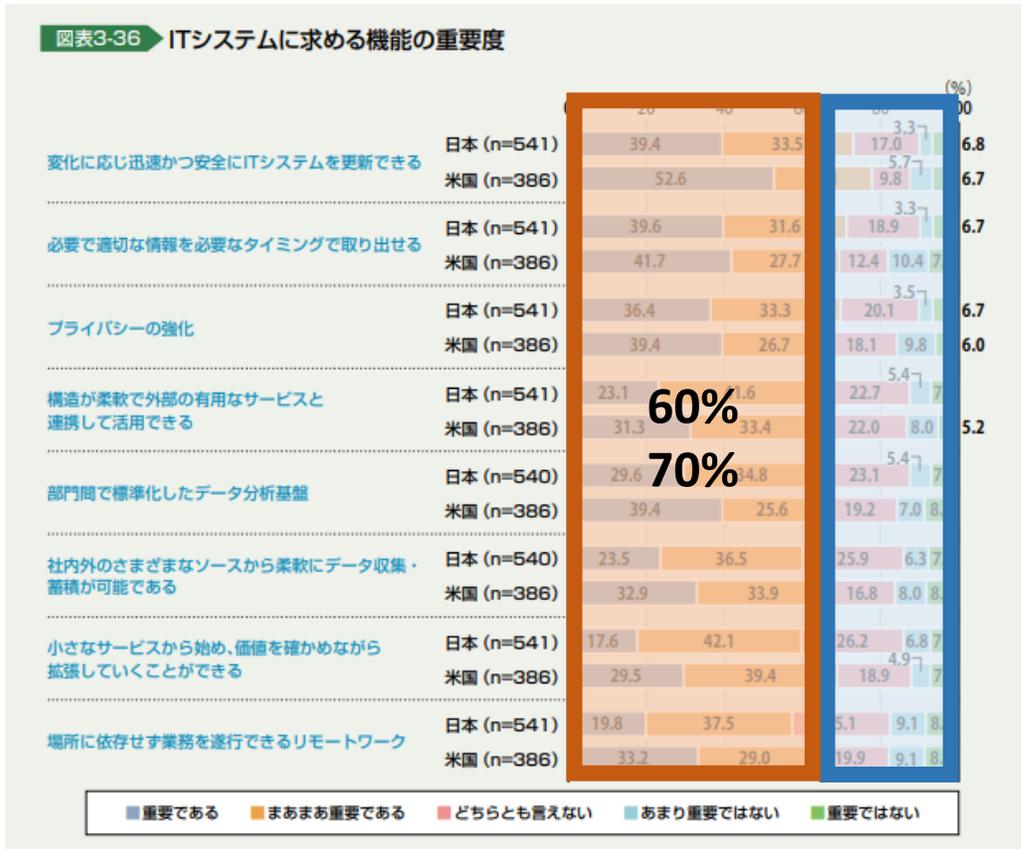
成果の80%はデジタル化

新規事業・事業変革は成果全体の20%のみ

DX取り組みの成果の80%は単なるデジタル化に留まる。

3か月の追体験

日本企業の70%がITの重要性を認めるも、情シスが機能提供できず



※集計対象は、ITシステムに求める機能の重要度で「重要である」「まあまあ重要である」と回答した企業

出典：独立行政法人情報処理推進機構(2023)『DX白書2023』

AS-IS

部分最適
シャドウIT

フットワークが重いので
ボトルネックに

事業部門

クラウド導入決定！

情シスは仕事が遅いなあ。

自事業を最適化するため、開発SEを雇うぞ。

よいソフトがあった。早く試したい！

情シスはビジネスのトレンドを知らない・・・

情シス

突発的な業務が多い！

問合せ/要望対応に時間を取られる

兼務業務・・・定常保守優先で業務に追われている・・・

作業が多いのに残業できない！

セミナーに行く時間がない！

問合せ等の突発的な案件が多く、案

打ち合わせ

システム監査

システム監に向けて資料準備をするぞ。

このクラウドサービス大丈夫？

組織内総務

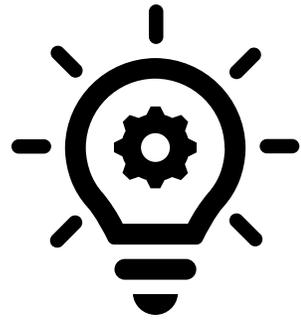
情報の納イトすぎる。

マニユアル作成に時間を取られる。

打合せの議事録作成・・・

やることが煩雑で多すぎる！

3か月の追体験



外部専任組織に

大鉦を振るってもらおう！！

3か月の追体験

- **専任のための新組織設置** → **即効性がない**
 - 一部の先進企業で見られる。
 - 組織図の変更や独自予算・権限の獲得はハードルが高い
- **ノウハウのある人材を採用** → **現実性に乏しい**
 - 一部の先進企業で見られる。所謂「システム内製」
 - IT人材獲得競争は苛烈を極める
 - 新規採用 = 固定費上昇に繋がり、受け入れられない会社も

3か月の追体験

• 既存組織で対応

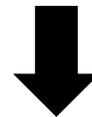
→ そのまま転用できない

CCoE / RPA推進組織

分科会内複数社で**成功事例あり**。
ただ、クラウド/RPA推進の為の技術要素が強い

DX推進組織

分科会内全社、目下活動中。
全社経営課題解決のためのビジネス要素が強い



専門組織の所属要員は**本業と兼務**。業務改革をする**余裕がない**



提案「情シス出島」

現状維持の”鎖国”した情シスを切り拓き
“開国”の夜明けに導く
『出島』の名を冠した情シス内特殊チーム

「出島型組織」の一般的な定義

江戸時代の鎖国政策下、国内と違うルールの下で外国人の立ち入りや貿易が許されていた「出島」に則り、既存組織と切り離れた組織体で治外法権を敷き、社内人材・外部人材を広く招聘する。
以て、全社経営課題の解決を目指す組織

「出島型組織」の一般的な定義

- **メリット**

- 既存組織のしがらみなく、ハイスキル人材をフル活用できる
- 組織体としての人数が少なく、迅速な意思決定ができる

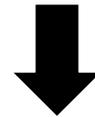
- **デメリット**

- 既存組織が既に握っている業務を奪う場合、軋轢が発生する
- 社内リソース（データ）へのアクセス制限

「情シス出島」の定義

• なぜ「出島型組織」はGAP解消に不向きなのか

- 「出島」側にノウハウがなく、既存組織（情シス）との相乗効果が出ない
- 既存組織（情シス）が抵抗勢力化する
（突然現れた「出島」から横槍が入り、仕事や権限を奪われるため）



“ローマは一日にして成らず”

課題解決は一足飛びには成し遂げられない。
まずは足回りを固めるところから始めるべき。

「情シス出島」の定義

足回りを固める

II

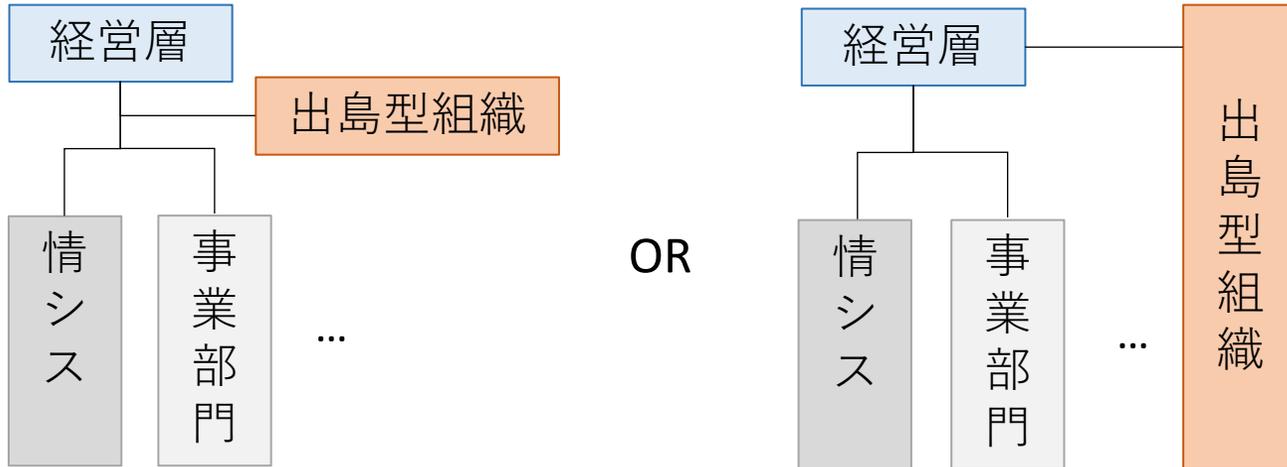
情シスの業務改革を目指す組織を**情シス内**に作る

「情シス出島」の定義

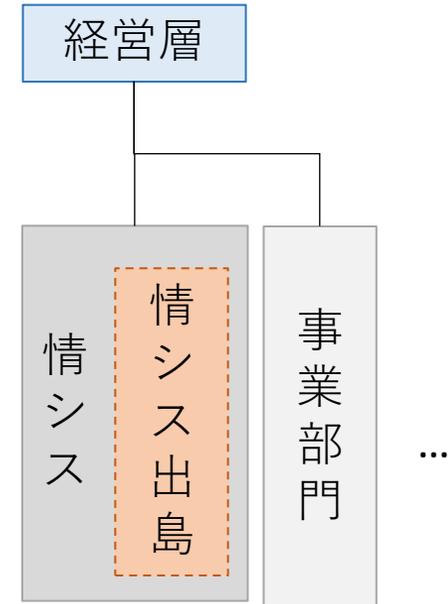
| | 出島型組織（DX推進組織） | 情シス出島 |
|------------|-----------------------|---------------------------|
| 組織体制 | 既存組織とは独立 | 情シス内グループ (全社組織図に描かれない) |
| 組織の目的 | 全社の業務改革 | 情シスの業務改革 |
| 予算 執行権限 | 組織単独で保持 | 組織単独で保持せず ※情シスに準ずる |
| 社内人材 登用 | 全部署から実施 | 情シス内から実施（原則） |
| 社外人材 登用 | 実施 (協力会社との戦略的提携含む) | 実施 (協力会社との戦略的提携含む) |

「情シス出島」の定義

出島型組織



情シス出島



「情シス出島」の定義

江戸時代の鎖国政策下、国内と違うルールの下で外国人の立ち入りや貿易が許されていた「出島」に則り、既存組織の**下部組織**として治外法権を敷き、**情シス内**人材を招聘する。

(必要であれば、ユーザ共創型のベンダーによる支援を受ける)

以て、**DX 推進部門の下支えができる情シスの育成**を目指す組織

赤字：定義の変更点

「情シス出島」と従来組織



情シス出島 = CCoE / RPA推進チームの業務拡大版

情シスの変革の魁として活動する**“専任”実働部隊**
両組織の成功要因である**“Quick Win”**概念（短期間に小規模の成功を収める）を包摂

ユーザ部門の行動特性

I WANT IT ALL
AND
I WANT IT NOW
(今すぐ、全部欲しい)

Freddie Mercury, 1989

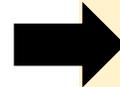
情シス出島がGAPを解消できる理由

理由1：ユーザ部門に追従できる機動力

これまでの情シス

複数案件を兼任しており、
対応速度に限界がある

システムの導入工程に
リードタイムが長い



情シス出島

スピード感を持った
専任サポートを提供

専門人材の配置により
ノウハウが集約



情シス出島がGAPを解消できる理由

理由1：ユーザ部門に追隨できる機動力

- 専任サポート + 技術の手の内化によって、対応速度を大きく向上可能
- **技術の手の内化のために、必ずしもシステム内製は必要ではない。**
”ユーザ共創型”のシステムベンダーとの戦略的提携も手段の一つ。

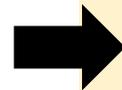
情シス出島がGAPを解消できる理由

理由2：システムの全体最適化

これまでの情シス

部分最適化されたシステムが林立し、
ビジネスプロセス全体を
俯瞰した効率化・共通化が困難

情シス内で
技術的・非技術的なノウハウが属人化



情シス出島

ユーザと協働し、サブシステムから
徐々に部分最適を解きほぐしていく

情シスの業務から独立しており、
客観的に情シス全体を
見渡すことが可能

情シス出島がGAPを解消できる理由

理由2：システムの全体最適化

一足飛びに全体最適化は不可能。

Quick Winで成功させたノウハウを活かし、
ユーザと協働しながら
徐々に部分最適を解きほぐしていく。

情シス出島の事例紹介①

ユーザ共創型支援：分科会内企業A

AS-IS

高額な保守費・・・

システムの生殺与奪を外部に握られる・・・

クラウドのメリットを活かし切れず、機動力が低い・・・

有識者が兼務状態・・・

PROCESS

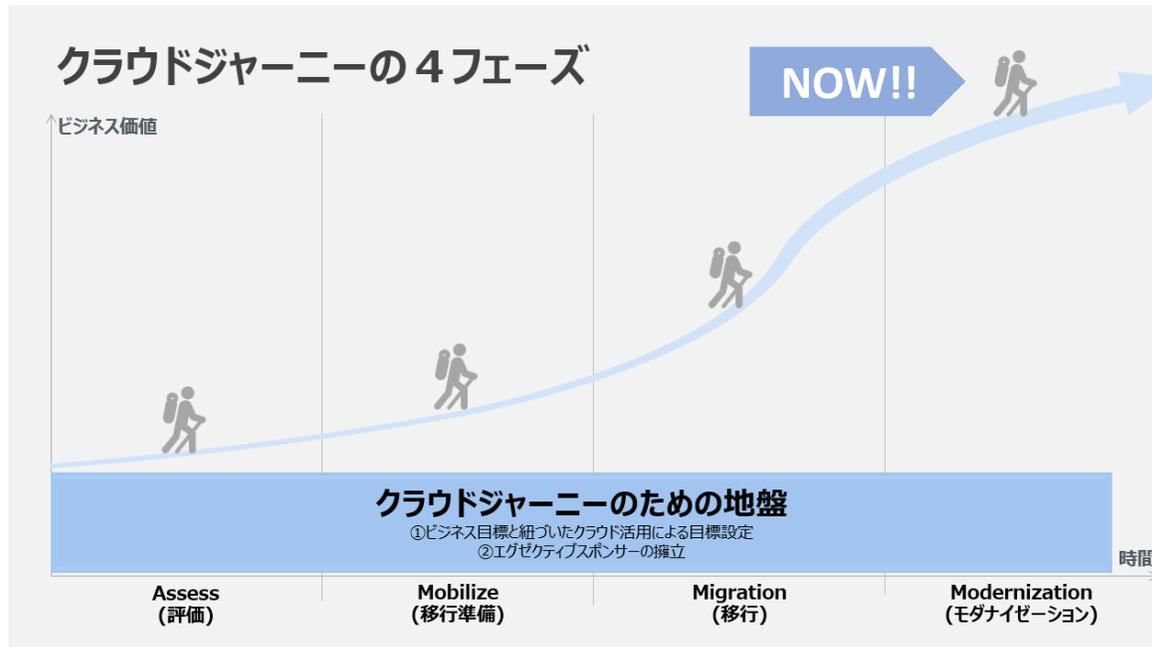
業務有識者、IT技術者、旗振り役の3名による選抜チームを編成。

AWS 3名による伴走支援を受ける

情シス出島の事例紹介①

ユーザ共創型支援：分科会内企業A

PROCESS システム基盤周りの完全内製化を実現。自律運転中
基盤がAWSに統一され、システム間連携が容易に



出典：アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社 2023)
『クラウドジャーニーの歩き方 前編』

情シス出島の事例紹介①

- ・ AWSによる支援を受けつつ、Quick Winを積み重ねて少しずつ組織を成長させた
- ・ **有識者を半専任**させる体制を構築



複数のサブシステムに、

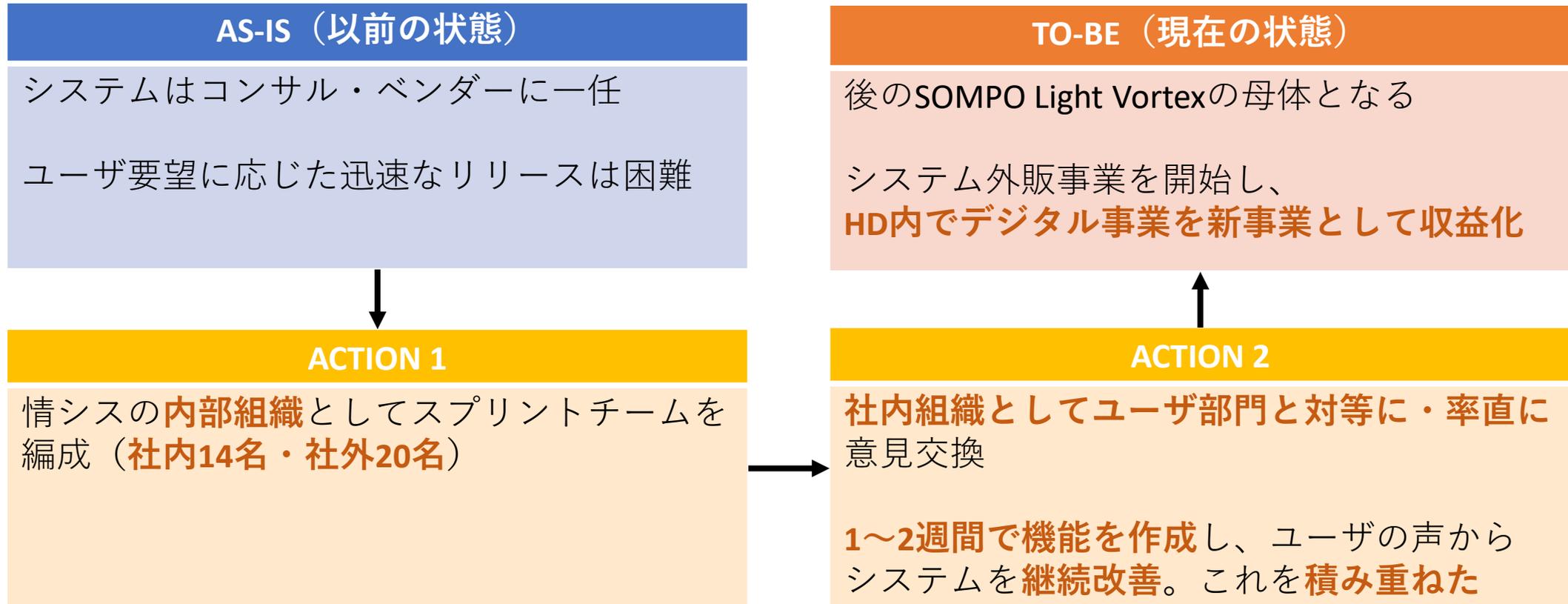
クラウドネイティブ基盤の導入完了。

出島外の情シスからの**信頼も獲得し、**
本丸の基幹システムの要件定義も**進行中！**

TO-BE

情シス出島の事例紹介②

情シス出島から出島型組織へ：SOMPOホールディングス(株)



PROCESS

情シス出島をあなたの会社で作るために

INTRODUCTION
ABOUT US
AS-IS / TO-BE
GAP
ACTION
PROCESS
CONCLUSION

情シス出島を作るために

では、皆様が置かれている状況で
情シス出島を作るために
どのような**プロセス・アクション**を
起こせばよい出ののでしょうか？



情シス出島を作るために



我々分科会では、**プロセス**として
組織変革とリーダーシップについての
著名な理論を提唱した世界的に有名な
思想家

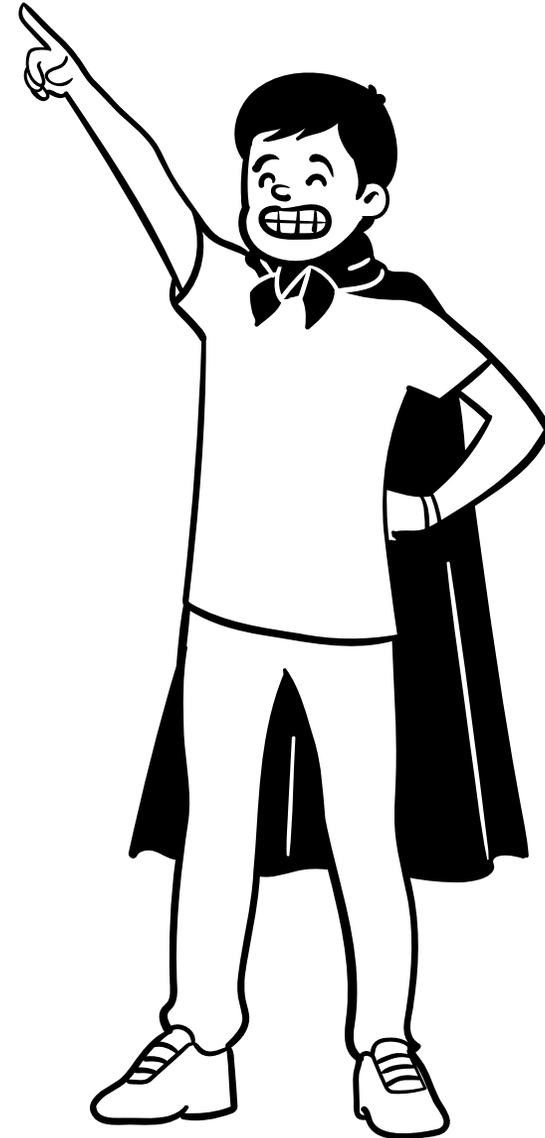
ジョン・P・コッター(John Paul Kotter)

8段階のプロセスを踏襲することとしました。

| ステップ | 8段階変革プロセス（デフォルメ） | 情シス出島構築プロセス |
|------|------------------------|---|
| 1 段階 | 危機意識を高める | 情シス部門長及び情シスメンバーに情シス出島の必要性和利点を明確に伝え、 変革の緊急性 を認識してもらう。 |
| 2 段階 | 変革推進の連帯チーム | 情シス出島設立の為のガイドチームを結成し、 リーダーシップと専門知識を備えたメンバー招集 |
| 3 段階 | ビジョンと戦略を生み出す | 情シス出島の ビジョンと戦略を策定 し、組織の将来の方向性を明確にする。 |
| 4 段階 | 変革の ビジョン を周知 | ビジョンを情シス全体に共有 し、メンバーが共感、理解できるようにする。 |
| 5 段階 | 従業員の 自発 を促す | 情シスメンバーに ビジョンを実現するための行動が促進 できるよう、積極的な参加を促す。 |
| 6 段階 | 短期的成果を実現する | ビジョンの実現に向けた 短期的な成果を作り出し 、成功体験を積み重ねる。 |
| 7 段階 | 成果を活かし、更なる 変革推進 | 短期的な成功をもとに、変革を確立 し、組織の文化やプロセスを変えていく。 |
| 8 段階 | 新方法を 企業文化に定着 | 情シス出島の 新しい文化やアプローチを定着 させ、持続可能な変革を実現する。 |

情シス出島を作るために

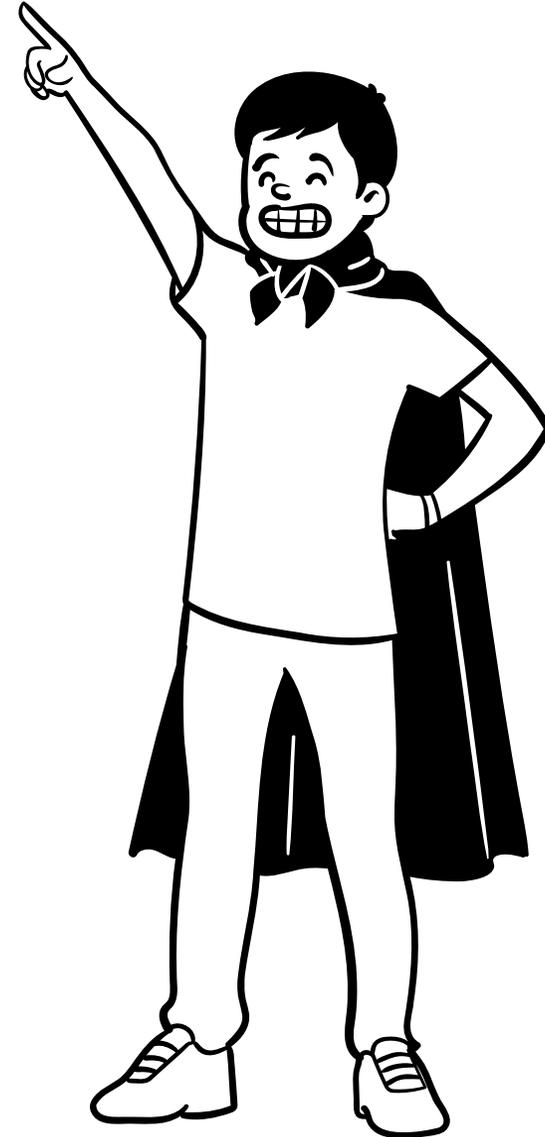
次に皆様が置かれている状況で
情シス出島を作るために
どの様な**アクション**を
起こせばよい出ののでしょうか？



情シス出島を作るために

3つのアクション

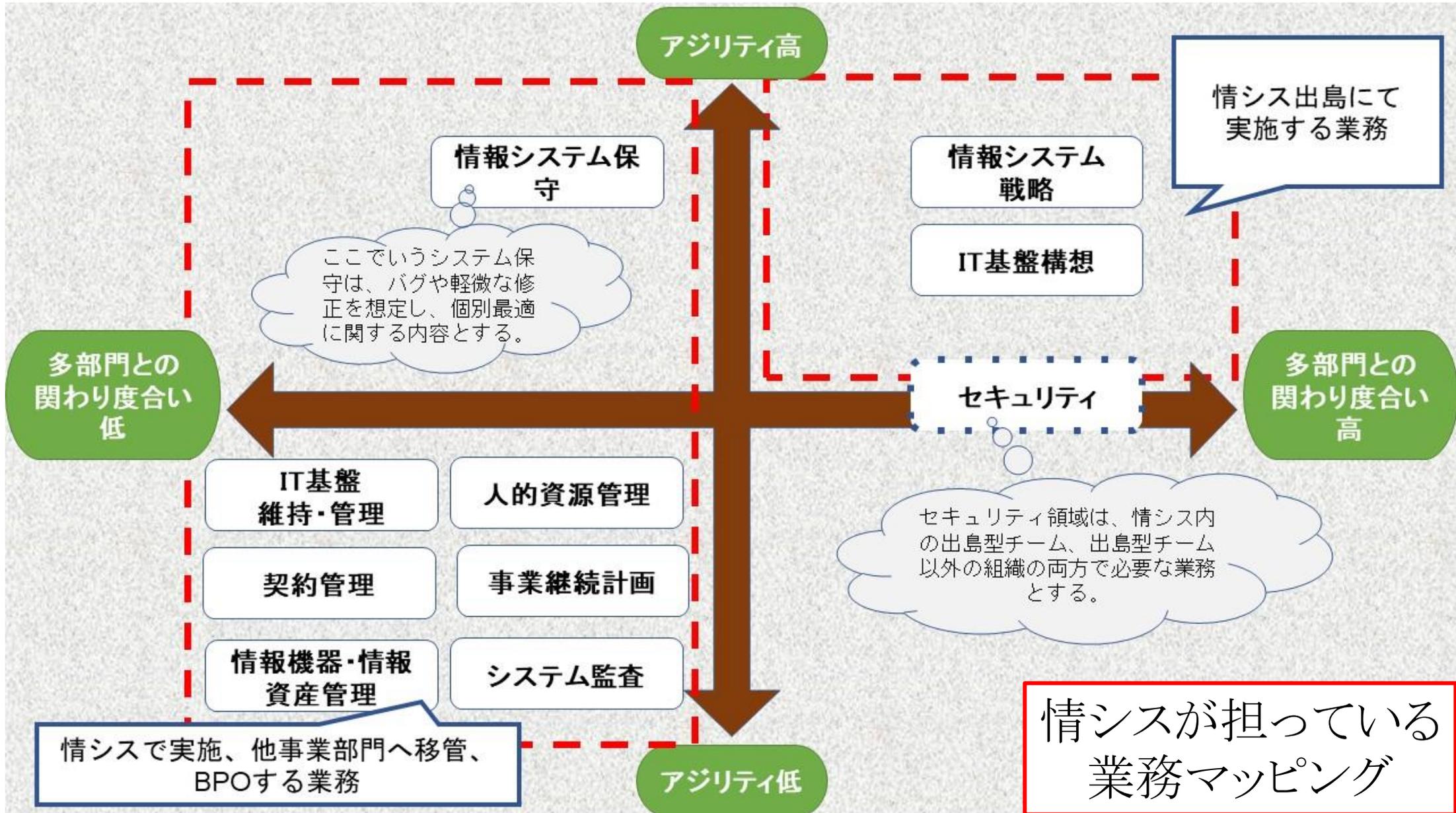
- ①情シス部門長への**プロセス**理解
- ②現状の**業務整理**
- ③必要な**人材の選定**



①情シス部門長へのプロセス理解

先に説明した**情シス出島の必要性**と**作るためのプロセス**を情シス部門長へ理解いただく。

②現状の業務整理



③ 必要な人材の選定（ペルソナ像）

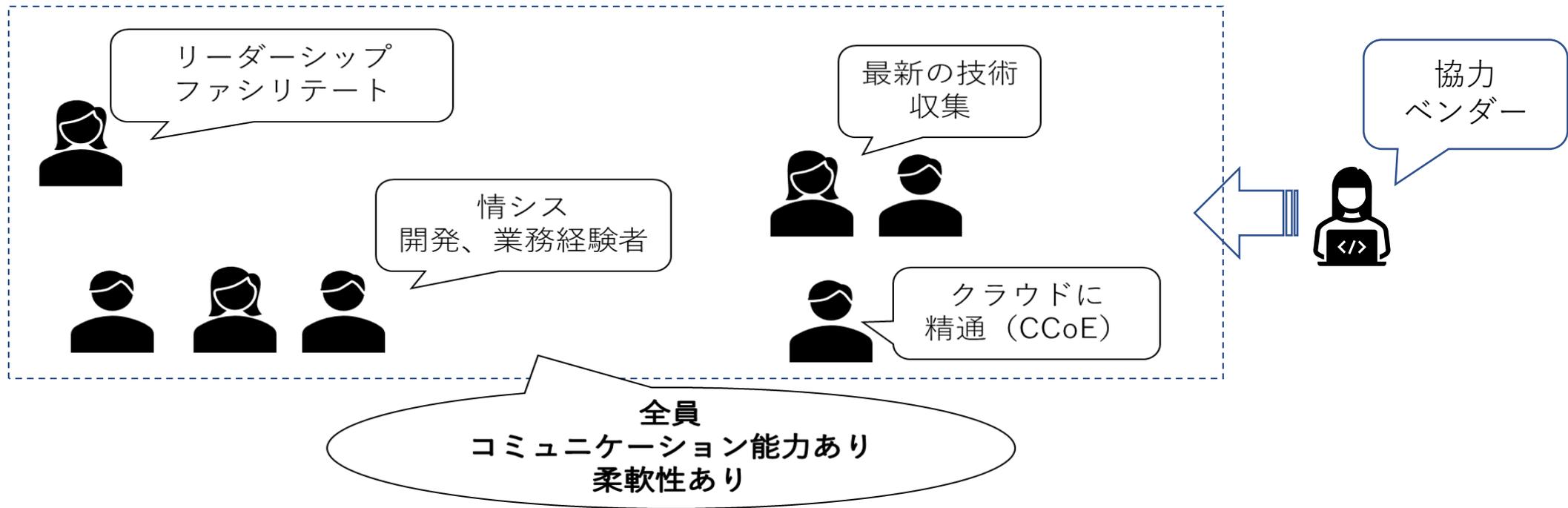
| 必要なスキル | 理由 |
|------------------|--|
| 情シスの業務の 広範な把握 | 情シスの業務を変革することが求められる中、 情シスの業務を理解している人材は必要 である。全体把握、全体最適を行う上で、広く浅く理解している人材が必要である。 |
| 最新のIT技術収集 | 最新のIT技術を手段として、情シスの業務を変革することを期待 されている。そのためには最新のIT技術を収集することは必要な要素である。 |
| CCoEとしての役割 | 各部署にて独自にクラウドやパッケージソフトを検討/導入するケースも少なくない 。それらのリスクをヘッジできる人材が必要である。 |
| コミュニケーション 能力 | 異なる部署や社外の人とコミュニケーションを行う。 広い視野を持ち、他部門や他社への理解や適応能力が必要 である。 |
| 柔軟性と適応力 | 環境やビジネスの変化に対応しながら、柔軟に対応する必要 がある。 |
| リーダーシップ能力 | 情シス業務を変革やプロジェクトの中心的存在になるケースが多い。 案件を牽引するスキル、つまりリーダーシップ能力が求められる 。 |

③必要な人材の選定（ペルソナ像）

ちなみに全スキルを保有しているスーパーマンが必要という訳ではありません！

出島という組織の中でスキルが担保できていればOK！

情シス出島メンバー構成の一例



情シス出島で実施する業務

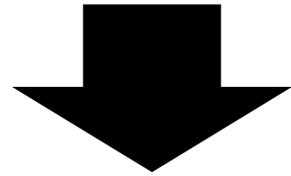


これらから
具体的な情シス出島で
実施する業務を
確認していきましょう。

情シス出島で実施する業務

情シス出島の命題

DX 推進部門の下支えができる情シスの育成



(情シスの業務見直し)

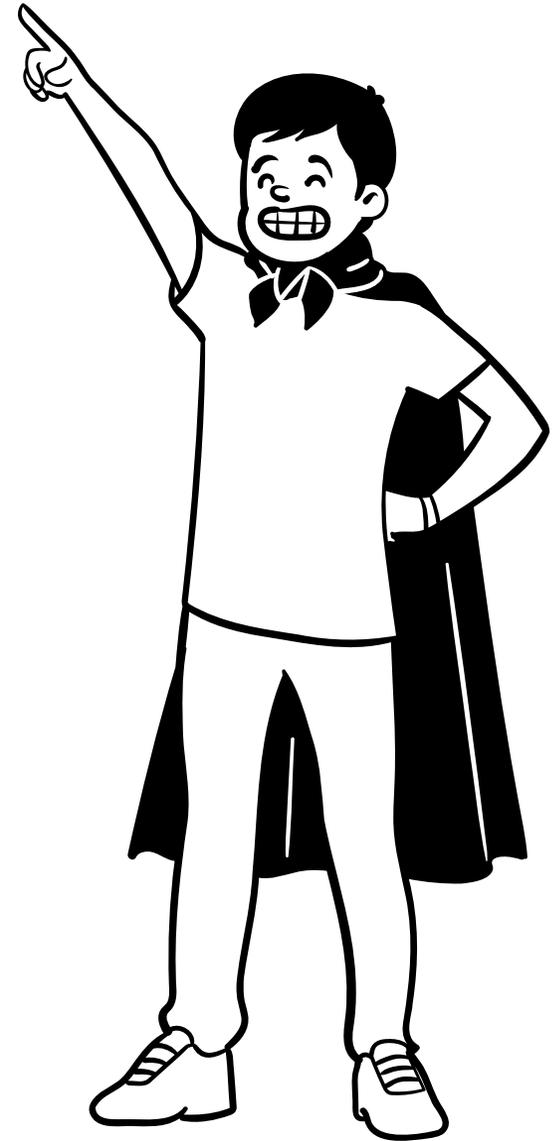
- ・ 情シス内業務の把握と改善点の明確化
- ・ 解決策の提案と、情シス全体で業務改善する旗振り役

(CoEとしての役割)

- ・ クラウド、パッケージの活用相談窓口

情シス出島以外で実施する業務

情シス出島の業務を見てきましたが
情シス出島以外の人達の業務は
どうなるのでしょうか？

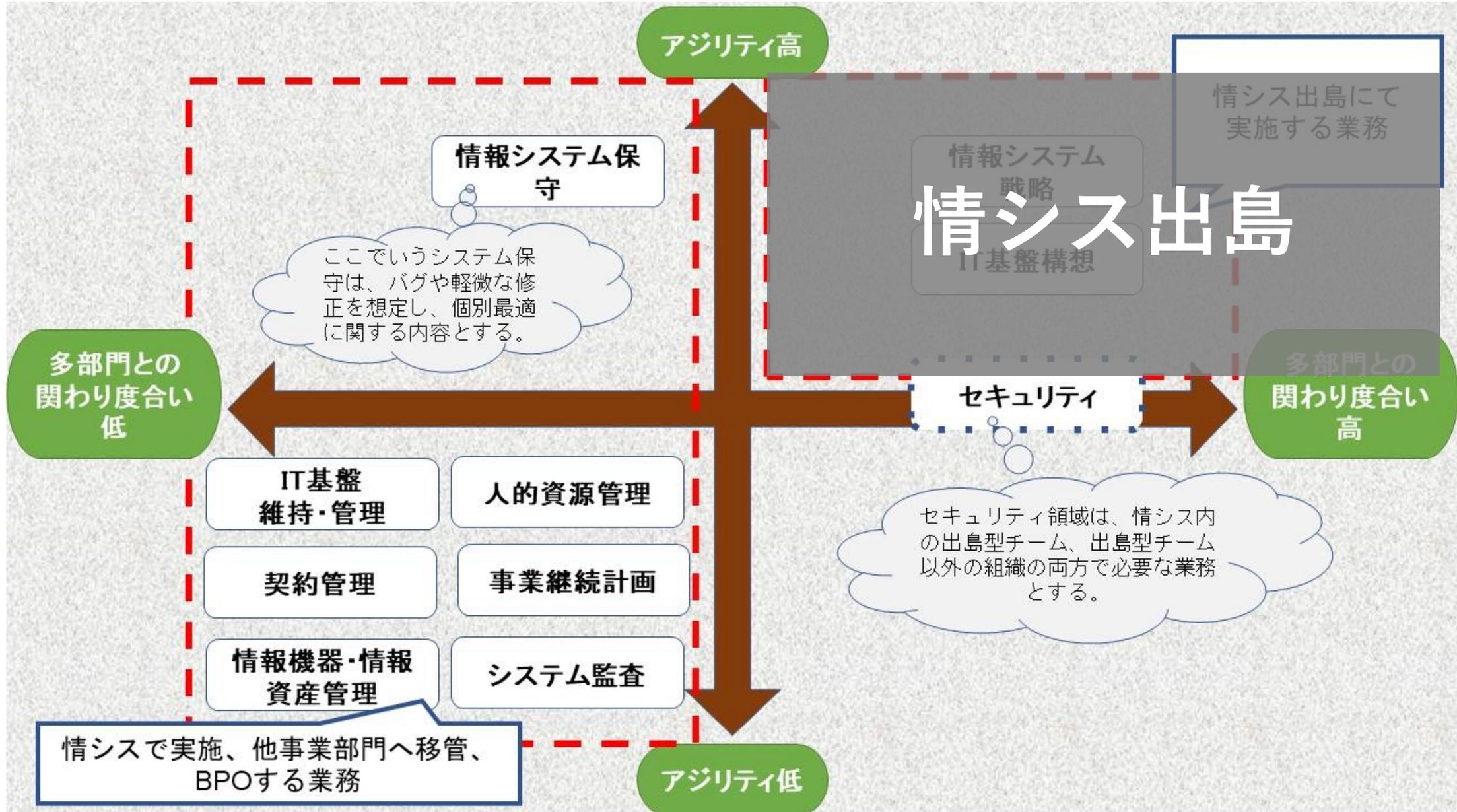


情シス出島以外で実施する業務

情シスの業務そのものがなくなることはありません。

情シス出島に移った人の分、うまく効率的に業務を進める必要があります。

②現状の業務整理

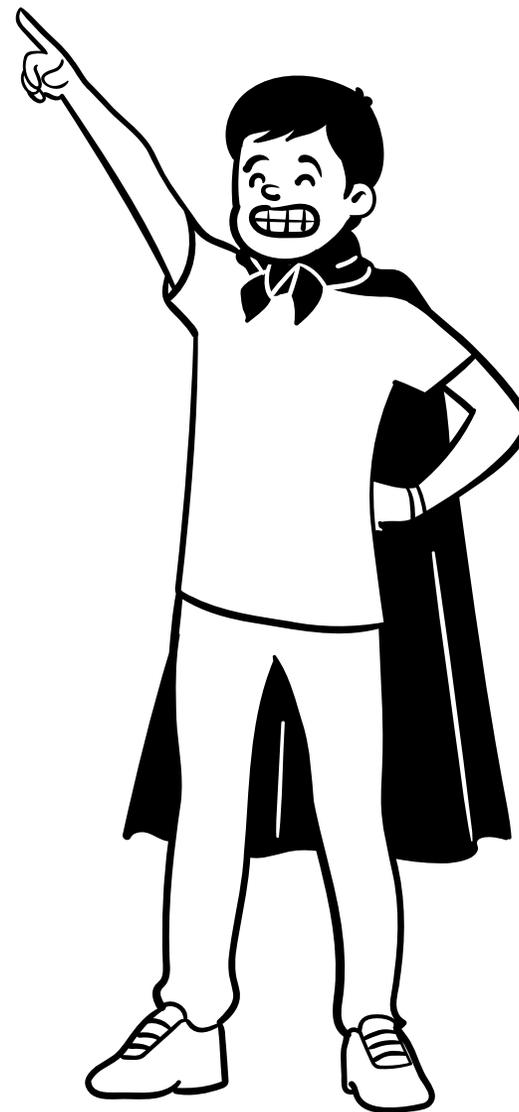


情シス出島以外で実施する業務

| 業務カテゴリ | 目的 |
|------------|-------------------------------|
| ①情シス運用・保守 | 情シスの効果最大化のために保守を安定的・効率的に実施 |
| ②IT基盤維持・管理 | ビジネス環境の変化や情報技術の進展に企業として継続的に対応 |
| ③機器・資産管理 | 情報資産の管理と共有化による生産性向上 |
| ④セキュリティ対応 | 情報資産に対する社内外からの脅威やリスク対応 |
| ⑤事業継続計画 | 情報システム領域に関わる事業継続計画の計画策定から遂行 |
| ⑥契約管理 | 社外との適切な契約関係の実現 |
| ⑦システム監査 | 情報システムの適切かつ健全な運営 |

情シス出島以外で実施する業務

それぞれの業務カテゴリに対して
効率化の案を説明します。



情シス出島以外で実施する業務

①情シス運用保守

(問合せ対応)

極力**現場で解決できる仕組みづくり**が必要

- ・よくある問合せに対する解決手段のマニュアル化
- ・チャットボットによる回答
- ・費用的に折り合いがつかならBPO

情シス出島と協働

(システム不具合対応)

負荷が高いのが、対処への仕様作成と検証

- ・開発ベンダーによる協力、BPOにて実施
- ・ただし、内容確認と承認は情シス



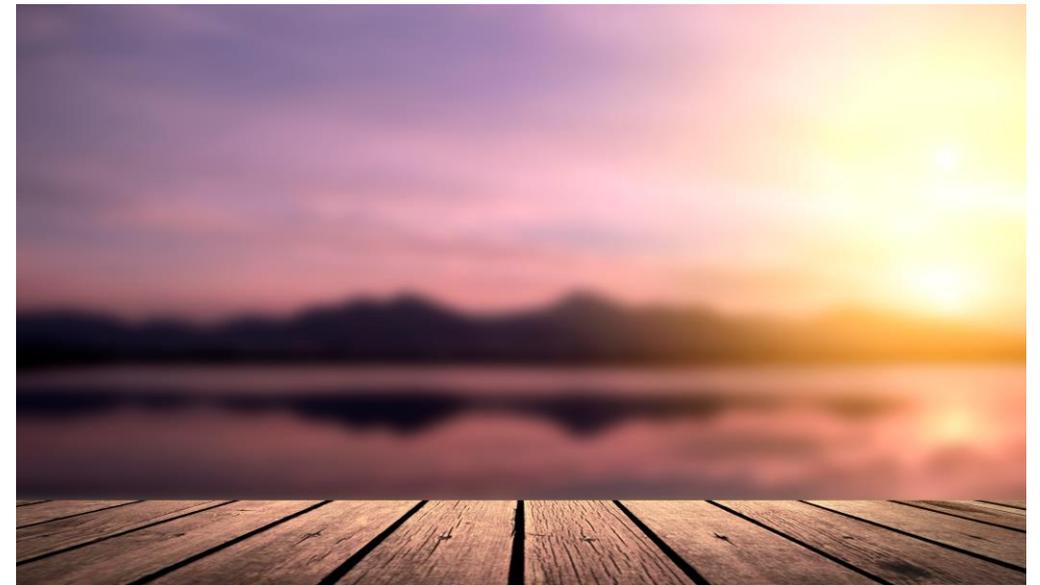
情シス出島以外で実施する業務

②IT基盤維持/管理

IT基盤の状況監視については、**やはり専門的な知識が必要**

- ・取引ベンダーが管理する仕組みづくり
- ・監視ツールも世の中に多く存在している。
少数精鋭の取引ベンダーが監視ツールを使い
モニタリングするような運用

情シス出島と協働



情シス出島以外で実施する業務

③情報機器/情報資産管理

パソコン、プリンタ、周辺機器のライフサイクル管理及びこれら機器がどこに配置されており、誰が利用しているかを把握

- 機器の手配は、事業部門と機器業者で **直接実施する**

- 自社の要件に合わせて **IT資産管理ツール**の適用可能性を模索し、少ない人員で運用できる仕組み

情シス出島と協働



情シス出島以外で実施する業務

④セキュリティ（対応）

技術面のフォローは**セキュリティ保全のベンダーに実施いただく**ものの、責任の所在は情シスに起因するので体制を構築し進める。

企業 × セキュリティベンダー



情シス出島以外で実施する業務

⑤事業継続計画（BCP）

既にBCPを実施している状態であれば、**状況監視等を外部委託**する。

今後BCPを検討するケースや
現状のBCPを改善するのであれば
情シス業務の現状を把握した上で改善する。

情シス出島と協働



情シス出島以外で実施する業務

⑥契約管理

- 契約書や注文書の内容確認承認については社員がすべきだが
承認後の書類の整理等は外部委託する。
- 請求書の管理については支払に関わる内容なので社員が責任をもって請求内容の確認及び支払処理をする。



情シス出島以外で実施する業務

⑦システム監査

監査前の準備に多くの時間を費やすと思われる。監査に向けての資料作成及び情報収集は外部委託する。



情シス出島以外で実施する業務

当然のことですが、上記はあくまで一案であり、それぞれ企業の文化や環境に応じた対応が必要。

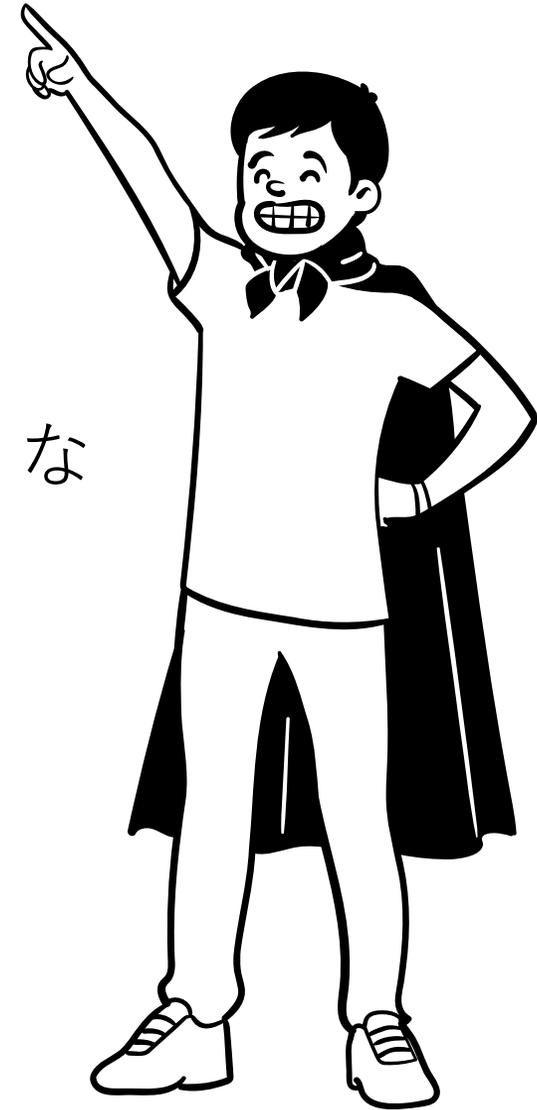
事務作業は外部委託できる。

外部委託する業務の中で、**事務作業は業務の兼務ができる。**

ただし、作業は外部委託可能だが、**内容の確認や承認は情シス**にて実施。

情シス業務の纏め

ということで、情シスでの業務を纏めるとこうなります！



情シス業務の纏め

(情シス出島にもっていくもの)

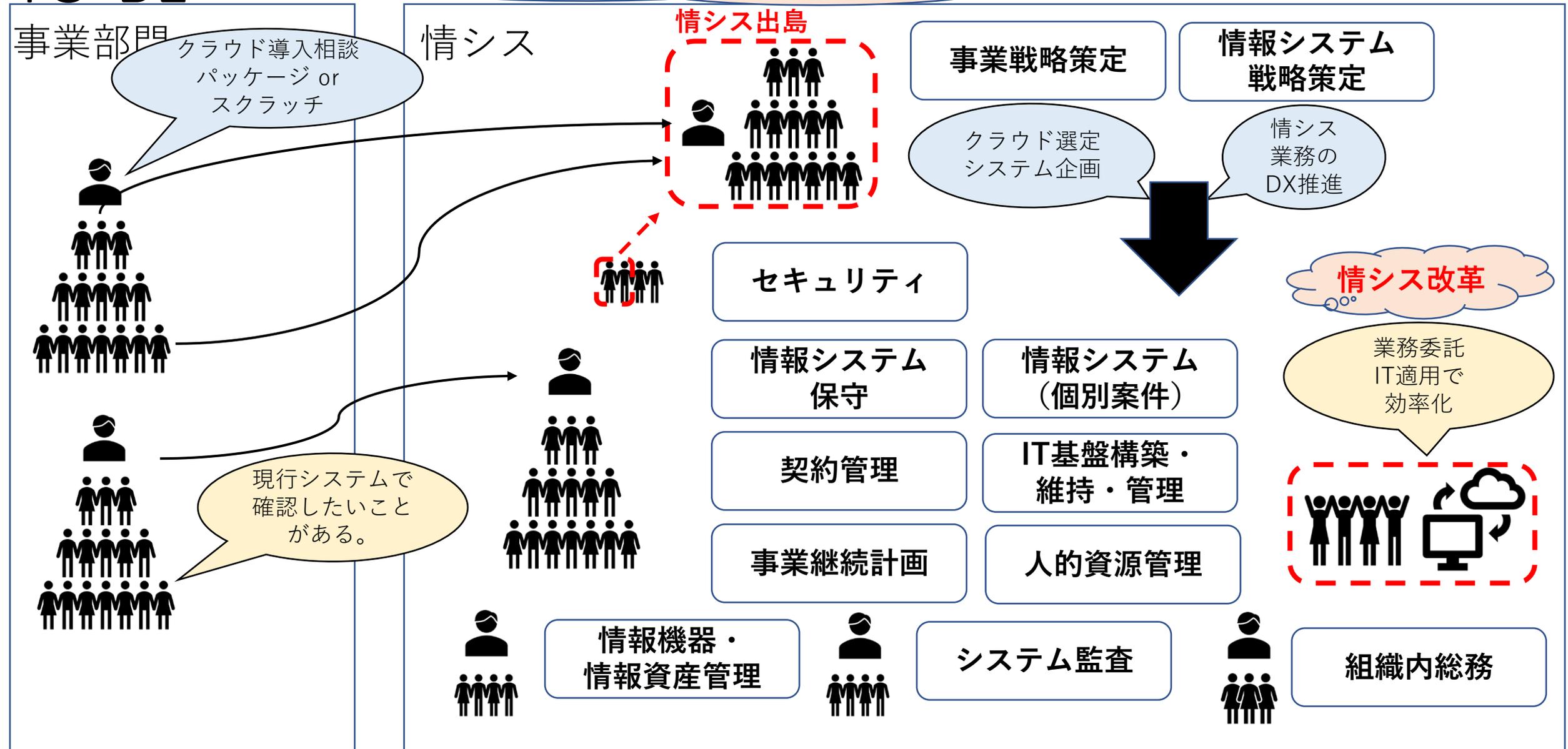
- ✓ CCoEとしてのクラウド導入判断
- ✓ 情シス戦略策定 (情シス内の業務改善)

(情シス内で標準化、自動化、BPOできるもの)

- ✓ 問合せ対応
- ✓ システムの不具合等、軽微なシステム対応
(ただし、社員の承認行為は必要)
- ✓ IT基盤維持管理
- ✓ 事業継続計画 (BCP)
- ✓ 情報機器/情報資産管理
- ✓ 契約管理
- ✓ セキュリティ維持管理

TO-BE

全体最適 効率的にクラウドを利用



CONCLUSION

情シスへの応援歌

INTRODUCTION
ABOUT US
AS-IS / TO-BE
GAP
ACTION
PROCESS
CONCLUSION

皆さんの情シス、時代の変化に対応できていますか？

「クラウド時代」に情シスに求められる役目とは？

当分科会の回答

- 「クラウド時代」に必要とされる情シスになるために、**情シス内部に出島型組織**を作る。
- 以下の2点の役割をもって、情シス出島を起点として情シス全体の業務改革の地ならしをする。
 - 専門家の**専任集団**として、フットワーク軽くユーザ部門と連携する
 - 社内システムの、そして情シス自身の部分最適を解きほぐし、**少しずつ全体最適を目指す**

情シスへの応援歌

- クラウド時代の到来まで**後僅かです**。先行企業は続々と業務変革の道を歩んでいます。
- この動きに呼応するように、システムベンダー側のソリューションメニューも変化しています。

クラウドジャーニーの4フェーズ

↑ビジネス価値



クラウドジャーニーのための地盤

- ①ビジネス目標と紐づいたクラウド活用による目標設定
- ②クラウドサービスセンターの確立

Ex: Amazon Web Services Japan G.K.

出典：アマゾンウェブサービスジャパン合同会社(2023)『クラウドジャーニーの歩き方 前編』

Assess
(評価)

Mobilize
(移行準備)

Migration
(移行)

Modernization
(モダナイゼーション)

時間



AWSデータベース構築・移行サービス

高い技術力を用いて、オンプレミスにあるデータベースをAmazon RDS (PaaS) またはAmazon EC2 (IaaS) に安全に移行します。

Ex: K.K. Ashisuto.

出典：株式会社アシスト(2023)『アシストのAWS支援サービス』

詳細はこちら



AWSビッグデータ分析基盤構築・移行サービス

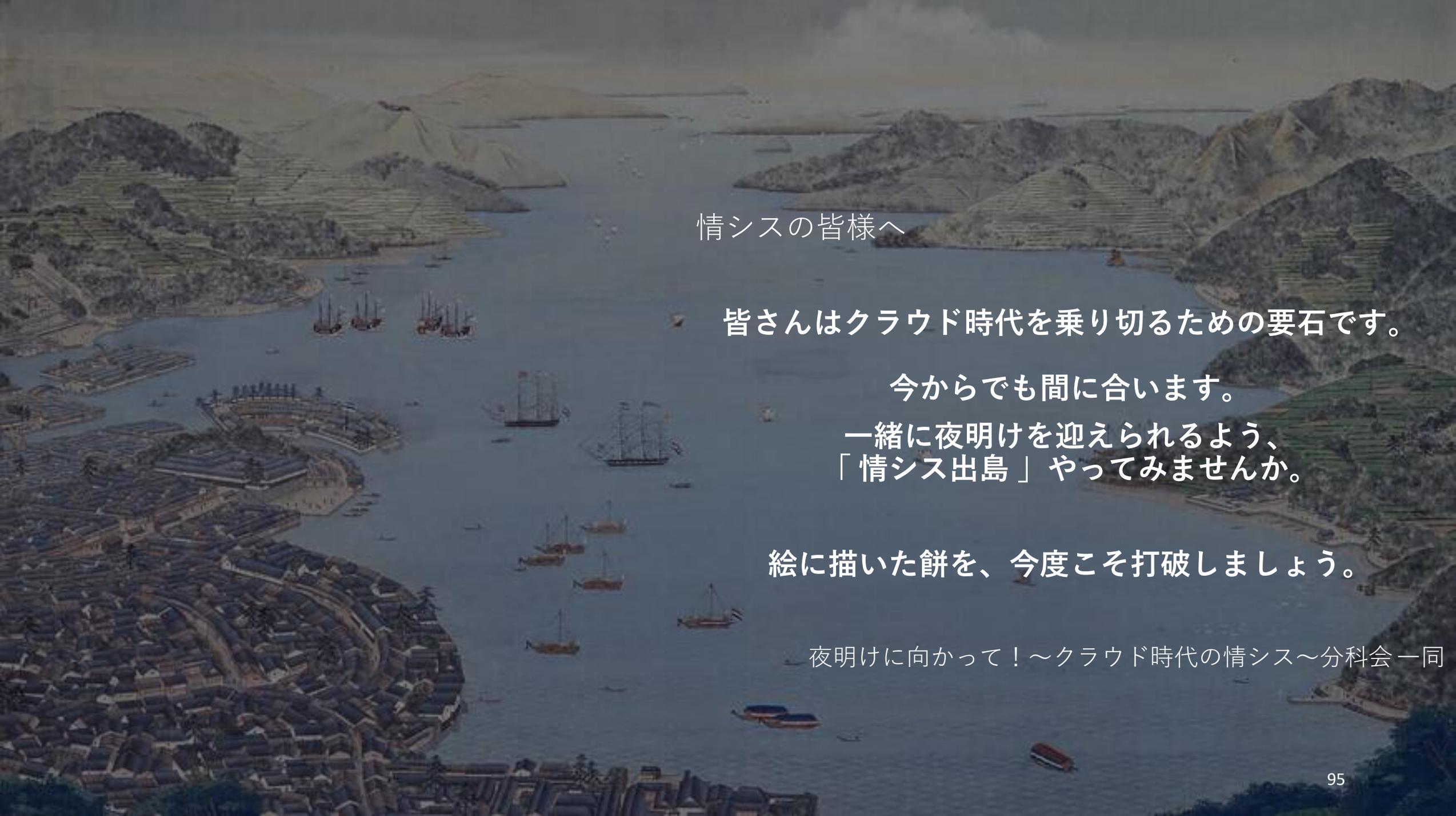
分析要件に合わせた最適なAWSサービスを組み合わせてご提案、構築し、使いこなすためのスキルトランスファーまでご支援します。

詳細はこちら



情シスへの応援歌

- 情シスの知見では対応できない分野において、業務改革やコスト削減を共に考えるというベンダーのアプローチが見え始めています。
- 個別の受託開発やシステムの維持管理だけがベンダーの役割ではありません。
- 今後、情シスとベンダーの垣根はますます低くなっていくと当分科会は予見しています。



情シスの皆様へ

皆さんはクラウド時代を乗り切るための要石です。

今からでも間に合います。

一緒に夜明けを迎えられるよう、
「情シス出島」やってみませんか。

絵に描いた餅を、今度こそ打破しましょう。

夜明けに向かって！～クラウド時代の情シス～分科会一同